

部室のドアを叩いて

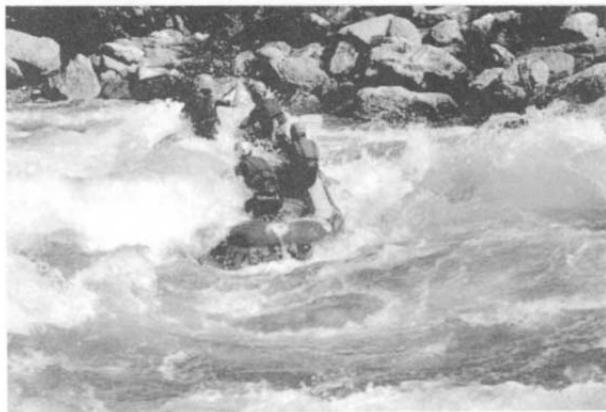
本城志野

探検部に入って 1 番慣れないことは、計画書の作成だ。

過去の計画書とにらめっこしながら家であーでもない、こーでもないと呟きながらパソコンと自室を行ったりきたりする。

私は大きな合宿を組んだことはないけど、先輩たちのアラスカの合宿の計画書はすごいと思う。今までの 50 年分の計画書も。手書きだったり、刷る物だったり、時間と共に書く道具は代わって行くけど、合宿へ行くために計画を立てて計画書を造って、審議して… 合宿へ行くって一連の流れ。

山を登る、川を下る、探検部の魅力はその、行動の部分にもあると思うけど、そこへいくまでのセッティングの部分にもあると思う。最終的な目標は自分で決めないといけないうのが難しくもあり、しん



2002 年冬 吉野川合宿より

どくもありまた、魅力でもあると思う。これは計画書を作る過程でも言えることだけだ。

私はまだ、決まってないけど、51 年目になるものを作りたいです。

(51 代 / 2 回生)

探検部に入って

平井敏浩

僕が探検部に入ろうと思ったのは、サークルガイドでこういうクラブがあることを知り、実際にどのような活動をしているのか気になったからだ。内容を知ると、面白そうだなと思い入ることにしました。

実際に探検部に入部し、すぐにゴールデンウィークの新歓合宿に参加しました。そのときの合宿は川下りの合宿で、ダッキーというボートに初めて乗り初

めて自力でボートを漕ぎました。この合宿は本当に初めてのものであったり、沈も一日目からしたりしてみんなの足を引っ張ったが楽しい合宿だった。それにはじめは合宿というものをあまり理解していなかったが、この合宿を通してだいたいの合宿の流れが理解できたと思う。

次の夏合宿は上回生達がアラスカにコバック川航行に行き、向こうでのいろいろな体験を聞くととても面白

そうだった。僕達一回生はOBとの登山や沢登りなどに連れて行ってもらった。そこでの沢登りは水をかぶって進んだり、水しぶきをあげて進んでいくのがとても楽しかった。でも、水がなくなって頂上までつめるのは汗がだらだら出てきたり、急斜面などを登ったりするのがしんどいと感じた。でも、夏の合宿の中では一番面白かった。秋合宿や冬合宿などでは川合宿などを行いそれはそれで面白かった。春合宿にも川下りをしたが2月、3月の間のこともあり気温が低くとても寒かった。それに朝起きるとボートが凍っていたり霜が降りていたりした。また僕は結構寒がりであったのでウェットに着替えるのがとても億劫になったりしていた。

こういう具合に一年間を過ごした。それで夏の沢登りの合宿で4回生の先輩が僕より大分重かったのにどんどん行くのはすごいと思い、憧れみたいな

感じでこれからは沢をしたいなあと思った。僕も先輩みたいに後輩に尊敬されるようになりたいと思った。またこういう先輩がすごいとかあんなふうになりたいという憧れがあるから探検部は続いているのだと思いました。それにこの探検部は部員から勧誘されて入ってくるのが少ないと先輩たちが言っていたので、本当に独特な人たちが集まって来て他のクラブとはまた違った感じのするクラブだと思いました。これからもこういう風になれるように努力したいと思いました。

(51代/2回生)

自分の未知への挑戦

塚本麻衣子

私が「探検部」というものを知ったのは高校生のときである。知り合いの大学生が他大学の探検部だったのである。

もともとアウトドア活動が好きで、中学・高校とは部活などであまり打ち込めなかったが、大学生になったら思う存分してみたいとは思っていた。話を聞くうちに探検部への憧れは強まり、探検部に入るために大学に来たと行っても過言ではない。

そしていざ入部し、現在に至る。



2003年慶良間諸島巡りシーカヤックより